

留学先国名 : フィリピン、オーストラリア

留学先学校名 : -English Fella

-BROWNS English school

-BROWNS Professional

留学期間 : 平成 27 年 4 月 4 日 ~ 平成 28 年 4 月 15 日

現代物理学の父と称されるアルベルト・アインシュタインが残した言葉の一つにこんなものがある。
“学べば学ぶほど、自分が何も知らなかった事に気づく、気づけば気づくほどまた学びたくなる”

私は留学をしていたこの 1 年 11 日の間でこの言葉の意味を痛いほどに感じる事ができた。自分に不足しているものは何か、それをどう克服するか、それらを考え認識することが大切なことなのだと分かった。そんな私の留学での生活をここで振り返ろうと思う。

まず初めに、この留学は一般に二か国留学と呼ばれているもので、その名の通り二か国での滞在を盛り込んだ留学であった。私は、マンツーマン授業を多く持つ学校があるフィリピンと以前に訪れたことのあるオーストラリアの二か国を留学地として選んだ。何度か海外には行ったことがあったとは言え、親元を離れて 1 人で暮らすのはこれが初めてで、どきどきとワクワクのみでなく学びが沢山ある生活ができたと感じている。

留学中の生活といえば外国の人たちとのシェアになる。何件か移動した中で一番印象に残っているのは、最後の移動先の女子 8 人のシェアハウスだった。メンバーは日本、韓国、イギリス、アメリカ、カナダ、ドイツ、メキシコ、ブラジルと実に多国籍で刺激的なものだった。皆がとてもフレンドリーで夜ごはん時になると共に食事をとり深夜まで自国の話、恋愛の話、仕事の話と色々な話をする事ができた。その中で私が痛感したのは、ネイティブスピーカーと語学専門学生の圧倒的な語学力の差だった。当たり前ではあるが、ネイティブスピーカーは英語を話すスピードが語学学生とは断然に違う。高速だ。また、使う単語も日本での英語教育で習う単語やイディオム以外のもの、ニュアンスが多量に有った。日本の英語教育に不足している学びがこれらであるのであろう。自分も世界へ出て同等に活躍したいならこの点を克服していかなければいけないのだと再確認できた。また、話は変わるが、こんなにも色々な国籍の人と大人数で生活しているとハプニングはつきものである。私が実際に経験したものの中の一つが盗難である。あんなにも仲の良かったシェアメイトの間で盗難！？日本では信じがたいことではあるが、海外ではこんなことも起こりうる。幸運にも私の場合は犯人が誰かは明白であった。私は最初困惑したが、すぐさま冷静に状況を判断し、何が 1 番お金を取り返せて、穏便に問題が解決するか、この先このようなことが続かないのかを考え行動した。お金を取り戻すまでには解決策の失敗や 2 時間半の話し合いなど様々な問題があったが何とか解決する事ができた。このように海外に出ると、様々なハプニングが起こる。そしてそれを自分の力で、さらには母国語以外の言葉で解決しなければならない。すべては自己責任なのだ。そんな状況の中で求められるのは、

冷静な状況判断力と柔軟な問題解決力であると私は考える。これから留学する人は是非この二点を意識しつつ生活してほしいと思う。

次に、フィリピンとオーストラリアの学校生活について。まず初めにフィリピンでは英語は第二言語として存在している。それではなぜフィリピン？と思う方も多いだろうが、フィリピンでは第二言語とはいえど英語がしっかりと浸透している。英語学習者であり文法もきっちり理解していてネイティブが話すような砕けた英語が少ない。さらに上でも述べたようにマンツーマンの授業が多くなる。基礎をしっかり作りたい人にはうってつけの場所である。授業形態やフィリピン人の人柄により先生との距離もすぐ近くになり、毎授業を飽きることなく楽しく受けることができる。私は先生の中でも特に仲良くなった人たちが何人かいて、その先生たちと食事へ行ったり休憩時間にお話ししたりカラオケへ行ったりと授業以外にもたくさんの時間を共にでき自然と英語力を身につけることができたと感じている。その次のオーストラリアの学校ではクラスのすべてが17人ほどのグループ授業になる。ここでは応用や、本場の英語を学ぶことができた。私のクラスには沢山の国から、様々な個性を持った人たちが集まっていた。皆が積極的に発言し、時にはうるさいと注意される程であった。間違いを恐れず、何事にも興味と疑問を抱いて取り組む姿に私は日本人では子供にしかない何かを感じた。このような探求心と積極性は忘れてはいけなく強く感じ、その後の留學生活に大きく影響をもたらしたと感じている。私にとっては最初、この留学は語学の習得のためだけであった。だが授業をしていくうちに（大学に出ていないこともあり）ただ英語だけを習得するという事に不安を感じ、他国の友達を見習って新しいことに挑戦することにした。そして紹介されたのがビジネス英語のコースだった。私にはこれについての知識が全くない状態でのスタートだった。語学とは全く違うことを母国語ではない言葉で習得するのは予想以上に大変だった。理解するのに苦労した。だがそれと同時に全てのテストをパスし、コースを終えた時の達成感は計り知れないものであった。多くの日本人はコンフォートゾーンと呼ばれる自分にとって心地よい、無理のない空間を好んで滞在する。だが私はこの留学を通してその様にしていけないのだと痛感することができた。というように、オーストラリアでは英語以外にも学ぶことが沢山あった。

私はこの留学を通し、沢山のことを考え、学んだ。それは語学の事だけではなく生活の回し方や意識の持っていく方と様々だった。上記で述べたこと以外にも自国の歴史や基礎情報を詳しく知らないことにも恥ずかしさを感じた。これから社会に出ていく人間として、語学力をより強化することはもちろんの事、世界に出ても恥ずかしくないように知識を沢山つけることと自己コントロール、判断力をより養いたいと思う。そして得たこととこれから学ぶであろうたくさんのことを生かして、世界に日本の良さを、他国のよさを日本にも発信できるような活動を行いたいと思う。

これから留学に行く皆さんには是非何事にも恐れず自分の限界にチャレンジしてほしいと思う。そうすれば必ず成長という形で結果がついてくるだろう。留学は自分が求めていた成長以上のものが得られると私は感じた。皆さんも自分を信じて、自分の目標や夢に向かって頑張してほしいと思う。